



20 犀川の秋

一面

丸山晩霞

大正四年（一九一五）

水彩、紙

四七・九×六五・〇

明治から大正期にかけて洋画壇の中心が東京にあったため、足を運びやすい信州の風景は洋画家たちに数多く描かれてきた。各地の風景を写生して、旅の画家として知られる丸山晩霞（一八六七～一九四二）も、郷里である信州の風景、ことに千曲川流域を好んで描いた。

大正四年（一九一五）の太平洋画会第十二回展に出品され、宮内省買上となった本作に描かれたのは、千曲川の支流の一つである犀川である。犀川丘陵を蛇行するこの川の美しい渓谷風景を、水彩の淡い色調でとらえている。秋らしさを感じさせる黄色と茶褐色を配しつつ、川面の青色と山並みや岩肌の紫色を生かして、それらのいろどりが面として折り重なるよう巧みに描かれている。微細な筆触による精緻な写実描写に徹していた前半期から、おおらかな線描と色面を主体とする後半期への画風の変化を示す一作である。

本多錦吉郎の彰技堂で油彩画を学んだ晩霞は、吉田博に出会って水彩画の魅力に目覚め、太平洋画会および日本水彩画会の創立に関わり、両会を中心に活動しながら水彩画の普及に努めた。

- ・各展覧会図録中，作品名や作者，制作年などの表記は，図録発行当時のものです。
- ・三の丸尚蔵館の展覧会図録の著作権はすべて宮内庁に属し，本ファイルを改変，再配布するなどの行為は有償・無償を問わずできません。
- ・三の丸尚蔵館の展覧会図録（PDF ファイル）に掲載された文章や図版を利用する場合は，書籍と同様に出典を明記してください。また，図版を出版・放送・ウェブサイト・研究資料などに使用する場合は，宮内庁ホームページに記載している「三の丸尚蔵館収蔵作品等の写真使用について」のとおり手続きを行ってください。なお，図版を営利目的の販売品や広告，また個人的な目的等で使用することはできません。

海と山のあいだ ―近代日本の風景描写

三の丸尚蔵館展覧会図録 No. 86

編集 宮内庁三の丸尚蔵館
制作 株式会社アイワード
翻訳 黒川廣子
発行 宮内庁
令和二年七月二十三日発行

©2020, The Museum of the Imperial Collections, Sanmomaru Shozokan